予算特別委員会で、3局に対し会派を代表し質疑を行いました。（質疑要旨）

平成25年度予算特別委員会で、民主党会派を代表し教育委員会、市民参画推進局、こども家庭局の3局に対し質疑を行いました。以下は質疑要旨の一部を抜粋して、紹介します。

インターネット録画でご覧ください。
神戸市会　検索

平成25年3月4日予算特別委員会　第一分科会　教育委員会

小学校の空調整備について

要望　大井議員

小学校の空調整備については、平成27年度までにPFI方式で進めるとのことだが、募集・入札を経て、業者の選定や設計・工事となると、実質完成は28年度までずれこむのではないかと予想される。

先の代表質問や、予特委での行財政局の審議などでも、市長や行財政局長の前向きな答弁があったが、2月・3月の補正予算が認められると、平成25年度の当初予算における空調整備の予算が不用となるわけであり、その分を26年度に繰越をすれば、新たな予算措置をせずとも小学校に空調を整備できる。ぜひ、27年度予定の小学校空調整備を一部でも26年度に先行して実施してもらいたい。また、26年度が空白とならないよう予算を活用し、ぜひ学校園の環境整備については国の補正予算も活用して早期完了を目指して取り組んでいただきたい。また、空調整備に関わらず、今回の多くの工事は出来るだけ地元発注をされるよう配慮をお願いしたい。

神戸マラソンについて

Q　大井議員

昨日、びわこ毎日マラソンや篠山マラソンが盛大に開催されていた。先週は東京マラソンがにぎやかに行われていた。昨年11月の神戸マラソンには2万人が出場され、沿道には557,500人もの応援団・観客が詰め掛けた。私も昨年の神戸マラソン2012に出場させていただいたが、沿道からたくさんの方々が応援をしてくださった。またたくさんのボランティアの皆さんが献身的なサポートをしてくださり、素晴らしい大会に参加できたと感じ、大会のテーマである「感謝と友情」というものを身をもって体感できたことは、本当に感謝している。

沿道の応援団やボランティアの方々にずっと「ありがとう」と言いながら走っていた。私の前を走っていた方もそうであった。6時間2分とあまり自慢できるタイムではなかったが、ゴール前では高橋尚子さんが待っていて、ハイタッチもさせていただいた。ゴールに入ると永井教育長も待っておられて、教育長も私が走っているのをみて驚いたと思うが私も教育長がいるのを見て驚いたのを鮮明に覚えている。あのときの思い出は一生忘れないと思う。天気も最高で、それも味方に大成功の素晴らしい大会であったと思っている。そのときに感じたことを少し質問させていただきたい。

神戸マラソンの運営は、前年に比べて大変改善されていた。1回目のときはいろいろトラブルもあった給水も完璧であった。給水所にいたボランティアの方々も本当に素晴らしい方々であった。中学生の子どもたちからも温かい励ましの声をもらいながら給水をさせていただいた。

ただ、国外からは39カ国457人の方が参加したと聞いているが、国際都市を標榜している神戸としては少し少ないのではないかと思う。東京マラソンでは海外から3,000人以上来られているようであるし、大阪マラソンでも1,000人ほどが来られているようである。大阪マラソンでも、全体の1割くらいは海外からの参加者にしたいと目論んでいるように聞いているが、ぜひ神戸市も神戸マラソンにおいては、「観光都市・神戸」「国際都市・神戸」にふさわしい大会として、海外からたくさんの方々に来ていただけるような意味をこめて、外国人の枠をもっと増やすべきと考えるがどうか。

A　永井教育長

私も色々なイベントを担当させていただいたことがあるが、マラソンだけはやるだけで本当に心が一つになる、不思議な力がある。神戸の携わる人たちが本当に一つに溶け合えるといった思いがするイベントである。唯一心配なのは天気だけというくらいだが、今回は第1回目の反省も踏まえて、給水・給食の改善をした。ランナーの密度など様々な改善も行い、ランナーの満足度が前回76点であったところ、今回93点まで向上している。大阪や東京はむしろ満足度は落ちており、神戸だけが上がっている。大きな事故もなく無事に終了できたということで、本当に喜んでいるところである。ただ、ご指摘のような海外からの出場者数については、私たちも同じ思いである。私の個人的な見解というか心配であるが、取り越し苦労であればいいが、大会のテーマである「感謝と友情」が重たい感じがするのではないかという気もしている。この辺についてはむしろ理解をしていただいて、PRをするべきなのかもしれない。

外国人の出走者数は、第1回は485名、第2回は399名であり、全体の出走者数が第1回目は25,000人ほど、2回目は2万人ほどと異なるため、人数自体は減少しているが割合は2.1%と同規模であったが、絶対数は減っているので、もっと増やしていきたいという思いはある。

ホノルルマラソンなどと比べるのは無理な話であるが、我々としては、海外から多くのランナーが参加してもらえるよう、募集要項上に海外居住者枠を設け全員を当選とするとともに、国のビジットジャパン事業を活用しながら協賛旅行会社である近畿ツーリストを通じて、台湾・ソウル・香港等でPRを行ったり、提携を結んだゴールドコーストマラソンEXPOでブースでの紹介をさせていただいたり、色々なことをしている。また、産業振興局が実施している海外での観光客の誘致活動時に神戸マラソンの英語・韓国語・中国語のチラシを配布してもらうなど、色々な形でPRをしている。さらに、国際交流推進部の紹介でインドネシア総領事に神戸マラソンのクォーターマラソンを走っていただいたこともPRにつながったと考えている。

第3回大会は新たな取り組みとして、国の「マラソン・ジャパン」事業と連携して、韓国からの参加者を100名程度参加してもらえるように、キャンペーンを行う予定である。

今後は、海外における企業活動を推し進めているアシックスやシスメックス等民間企業との連携や旅行会社・航空会社との連携による神戸マラソンツアーの商品化も検討していきたい。さらに、シアトルや天津など神戸市の海外事務所を通じたPRや、姉妹都市等でのイベントを通じたPR、領事館や神戸市外国語大学をはじめとする県内大学と連携したPRなど、考えられるだけの海外との結びつきの中でPRできるものはすべて利用していこうということで、神戸市が海外に情報発信をして海外からの参加者の獲得を進めていきたい。来年は2倍にはしてみせる。空約束にならないように頑張るのでよろしくお願いしたい。

要望　大井議員

日程について第3回大会は今年の11月17日の日曜日に行われるが、前回は3連休の11月25日に行われている。3連休に行われたことによって、選手だけでなく家族も一緒に県外から来られていた。地元のホテルなども満杯になって非常に盛況だったとのことである。ぜひ2014年度は11月22～24日と3連休となるので、そういったものもうまく活用していただけるようお願いしたい。地域も一緒に潤うような大会にしていきたいと思っているので、教育委員会も色々なところと連携していただいて、ますますたくさんの方々が来られるような大会にしていただきたい。走ってみて感じたが、神戸マラソンはロケーションも素晴らしく、いつも車で走っていたが、ランナーとして走ってみて本当に素晴らしいロケーションで、どこにも負けないマラソン大会だと思う。これを上手に活用すればもっとたくさんの方に来ていただけると思っているので、ぜひそういった形でやっていただきたい。

公民館の図書コーナーについて

Q　大井議員

来年度予算から、一部の市民図書室でも図書館の図書の貸し出しおよび返却ができるようになり、図書館ネットワークが拡大され、さらに私が提案した北須磨文化センターの図書室でも図書の貸し出し・返却ができるようになり評価している。しかし、公民館のあり方を見直している最中であるのだから、公民館の図書コーナーのあり方についても、中央・地域図書館とのネットワーク化を含めて検討すべきではないか。

A　東野社会教育部長

図書館ネットワークの拡充については、まずは、小中学校に設置をしている市民図書室を活用し、図書館サービスの充実を図りたい。

具体的には各区で1か所のサービス拠点を、3年計画で14か所程度整備し、図書館とのネットワーク化を行い、図書館の図書の貸し出し及び返却できるようなサービスを始め、図書館サービスの充実を図っていきたい。平成25年度に2か所での実施を予定している。

委員ご指摘の公民館の図書コーナーについては、地域図書館等に比較的近い場所に立地していることや、図書コーナーも狭いことから、現時点では図書館とのネットワーク化は考えていない。ただ、現在でも図書館のリサイクル本を活用しており、例えば、図書館の団体貸出制度もある。あり方検討会の意見書を踏まえてこれから事業を見直していく中で、図書館との連携策、図書コーナーの蔵書充実などにより、できるだけ多くの方々に利用していただけるよう努めてまいりたい。

要望　大井議員

以前委員会でもお話したが、文教こども委員会で浦安市などに視察に行った。

浦安市は私の住んでいる須磨区と同じくらいの人口規模の都市だが、りっぱな図書館があり、その他に公民館の図書館が4つくらいあった。その他に駅前の図書サービスコーナーがあり、大変充実していた。そして公民館の図書館が大変素晴らしいものであり、話を聞くと、図書館は公民館法によって整備をしなければならないとのことであった。それを受けて須磨の公民館を見たときに、先ほどのようなことになっていたわけである。須磨区でも図書館は1箇所しかなく、今回北須磨文化センターでもインターネット貸出が出来るようになったわけであるが、ぜひそういうことから公民館の図書館は活用していっていただきたいと思う。

平成25年3月5日予算特別委員会　第一分科会　市民参画推進局

区役所サービスについて

Q　大井議員

市民参画推進局では、区民サービスディレクターを全区に配置するなど、区役所におけるサービスの向上を目指して取り組みを進めており、ワンストップ窓口の導入で窓口サービスも改善されてきているが、電話などの応対については、まだまだ職員への徹底ができていないと感じている。

どの様な教育をされているのかお伺いしたい。

また、区役所に問い合わせをした際に、「担当者がいないので、また電話してください。」と断られた市民の苦情をよく聞くが、一人の担当者がいないだけで全く対応できないことは大きな問題である。組織内での情報共有と言った点での取り組みはどうなっているのか。少なくとも用件を聞いたうえで区役所側から電話を架け直すなどの応対をすべきでないかと思う。

こうしたことは、職員に「サービスを提供している」と言う意識が足りていないからであり、意識改革を徹底して進めるべきと考えるが、見解を伺いたい。

A　大谷局長

区役所の窓口は、市民サービスの第一線として、非常に重要な役割を担っている。今回、市民サービスの第一線と言う意識が職員全体に浸透するところまで至っておらず、担当者不在時における対応などで不適切な対応があったことについて心苦しく思う。再度、対応の徹底を誓いたい。

区役所には、様々な窓口業務があり、保護課など保健福祉分野では地域ごとに担当者を分け、担当者との信頼関係において継続して相談に来庁されるようなケースもある。そうした場合、より詳しい担当者に聞かないとわからないこともある。

ただ、ご指摘のように、そういった場合でも少なくともこちらから連絡すべきであり、それが電話対応の基本であると、職員研修用ハンドブックの中でも触れられている所である。

また、組織内の情報共有についても、個々の業務内容や体制にもよるが副担当を決めるなどのバックアップ体制の整備や、書類の所在や処理過程が他の担当者にも容易にわかるようにするなど、日常から職員間の連携を図っている所である。今回十分徹底が出来ていないとのご指摘については、真摯に受け止めて再度徹底を図っていきたい。